

生活援助技術論 I (感染・環境・活動・食事の援助技術)

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 小林 由美子 講師		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座、看護専門基礎講座		
対象学年	1	区分・時間数	講義 9 時間 演習 15 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

看護技術は、看護の専門知識に基づいて、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指した行為であることを学ぶ。そして、看護実践に共通する感染予防・観察の技術など基本的な技術と療養生活を支援するための技術について、講義と演習を通して学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

実施する看護技術（感染・環境・活動・食事の援助技術）の原理・原則を理解し、援助実施の際には相手を尊重し、安全安楽な援助方法を考えて実践できるようになる。授業内容の理解、演習への積極的な参加、主体的な自己学修（視聴覚教材の利用を含む）を通してその方法を身に付けることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1,2,3,4

・到達目標（SBO）

1. 看護と看護技術の関連性, 実践するための知識・技術・態度について説明することができる。
2. 看護師がコミュニケーションの技術を用いて、看護実践を行う重要性を述べることができる。
3. 感染予防の意義、感染を成立させる要素と成立過程を説明できる。
4. スタンダードプリコーションとは何か述べるすることができる。
5. 手指衛生の方法、個人防護用具の使用方法を説明できる。
6. 感染経路への対策としての手指衛生を実施できる。
7. 個人防護用具の着脱が実施できる。
8. 人間にとっての環境の意味と快適な環境をつくる方法について説明できる。
9. 根拠に基づいたベッドメイキングが実施できる。
10. 根拠に基づいた臥床患者のシーツ交換が実施できる。
11. 患者と看護師の双方に負担をかけない姿勢と動作を説明できる。
12. 活動・運動の意義と援助の目的について説明できる。
13. 運動機能の維持・回復のための援助を説明できる。

14. 体位変換の目的、方法、留意点について説明できる。
15. ボディメカニクスの原則に基づいた体位変換が実施できる。
15. 車椅子・ストレッチャーでの移動方法、留意点について説明できる。
16. 相手の反応を確認しながら、安全な移動の援助が実施できる。
17. 食事・栄養摂取の意義とそのしくみ、援助の目的を説明できる。
18. 経口摂取できる患者への食事介助の方法と留意点を説明できる。
19. 経口摂取以外の栄養摂取方法について挙げるができる。
20. 経管栄養を必要とする対象者への実際の援助方法および留意点を述べるができる。
21. 相手の反応を確認しながら、根拠に基づいた食事介助および口腔ケアの実施ができる。
22. 看護に必要な患者の情報を収集するための方法を説明できる。
23. 看護に必要な患者の情報を収集するための方法を実施できる。
24. 演習で経験する技術修得に向けて主体的に行動することができる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-A 講義室、(矢) マルチ 2-A 実習室、(矢) マルチ 2-B 実習室、

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/9	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	<p>看護技術とは 人間関係を成立・発展させるための技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護と看護技術の関連性, 実践するための知識・技術・態度について説明することができる ・看護師がコミュニケーションの技術を用いて、看護実践を行う重要性を述べることができる
5/9	月	4	看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師	<p>感染予防を推進する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の意義、感染を成立させる要素と成立過程を説明できる。 ・手指衛生の方法、個人防護用具の使用方法を説明できる ・スタンダードプリコーションとは何か述べるができる
5/23	月	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	<p>効率的で安楽な動きをつくり出す技術 快適な環境をつくる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての環境の意味と快適な環境をつくる方法について説明できる ・患者と看護師の双方に負担をかけない姿勢と動作を説明できる ・リネンの種類、ベッドメイキングの方法を説明できる

5/31	火	4	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	活動・運動を支援する技術 ・活動・運動の意義と援助の目的について説明できる ・運動機能の維持・回復のための援助を説明できる
6/27	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	食事・栄養摂取を促す技術 ・食事・栄養摂取の意義とそのしくみ、援助の目的を説明できる ・経口摂取以外の栄養摂取方法について挙げることができる ・経管栄養を必要とする対象者への実際の援助方法および留意点を述べるができる
7/7	木	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	生命の徴候を観察する技術 ・看護に必要な患者の情報を収集するための方法を説明できる

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
5/16	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	感染予防を推進する技術 (手指衛生) (個人防護用具の使用方法) ・感染経路への対策としての手指衛生を実施できる ・個人防護用具の着脱が実施できる
5/30	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	快適な環境をつくる技術 (ベッドメイキング) ・リネンの種類、ベッドメイキングの方法を説明できる ・根拠に基づいたベッドメイキングができる
5/30	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	快適な環境をつくる技術 (臥床患者のシーツ交換) ・根拠に基づいた臥床患者のシーツ交換ができる

6/6	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	活動・運動を支援する技術 (体位変換) ・体位変換の目的、方法、留意点について説明できる ・ボディメカニクスの原則に基づいた体位変換が実施できる
6/6	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	活動・運動を支援する技術 (車椅子) (ストレッチャー) ・車椅子・ストレッチャーでの移動方法、留意点について説明できる ・相手の反応を確認しながら、安全な移動の援助が実施できる
6/27	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	食事・栄養摂取を促す技術 (食事介助) (口腔ケア) ・経口摂取できる患者への食事介助の方法と留意点を説明できる ・相手の反応を確認しながら、根拠に基づいた食事介助および口腔ケアの実施ができる
7/4	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	総合演習 (技術到達度の確認) ・これまで学んできた看護技術の中で、指定した看護技術を原則に基づき、実施することができる
7/4	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	総合演習 (技術到達度の確認) ・これまで学んできた看護技術の中で、指定した看護技術を原則に基づき、実施することができる
7/11	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	生命の徴候を観察する技術 ・看護に必要な患者の情報を収集するための方法を実施できる
7/11	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	生命の徴候を観察する技術 ・看護に必要な患者の情報を収集するための方法を実施できる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術 第1版	松尾ミヨ子 城生弘美 習田明裕 金壽子 編集	メディカ出版	2022
参	看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版	医療情報科学研究所 編集	MEDIC MEDIA	2018
参	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任和子 井川順子 秋山智弥 編集	医学書院	2017

・成績評価方法

筆記試験 70 点、演習への取り組み 30 点の合計 100 点とする。

* 演習への取り組みは、技術到達度の確認、演習の参加状況・態度と指定された提出資料の内容・提出期限の厳守、学修課題の実施状況（課題レポート、視聴覚教材の視聴）も含む。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

・ シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で授業に臨むこと。
・ 本科目で指定の教科書だけでなく、解剖生理学など広く授業内容に関連した教科書の章を事前に読んで参加すること。

・ 演習開始前には、関連する教科書の章および配布資料を読む、“e ナーストレーナーの動画”または、“WebClass にあげた動画”の視聴覚教材を視聴するなど、イメージトレーニングを行って、学修のポイントを理解した上で参加すること。また、各回で予習復習を目的とした学修課題が提示されるため、その課題に取り組むこと。

・ 各授業について、最低 30 分以上の事前学修を要する。看護技術の修得は、繰り返し実施することが必要のため、授業終了後も主体的に技術練習を行い、自己学修を重ねて知識と実技の定着に努めること。

・ 授業時間を有効に使用するために演習時は物品片付けで授業時間外になることがある。

・ 演習の準備と片付けに主体的に参加すること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

・ レポート等の課題は、適宜コメントし返却する。

・ 技術到達度の確認は評価表に基づき評価し、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野 基礎看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン (DELL New Inspiron 15(5515))	1	講義
演習	ベッド・シーツ類・折りたたみカート	24	全項目共通で使用
演習	グリッターバグ	12	手指衛生
演習	ロンボ ポジショニングピロー導入セット 5種類(6個)	12	体位変換
演習	ストレッチャー	2	移乗・移送
演習	車椅子	12	移乗・移送
演習	ガーグルベースン	24	口腔ケア
演習	電子体温計	24	生命徴候の観察
演習	水銀レス血圧計	24	生命徴候の観察
演習	アネロイド血圧計	24	生命徴候の観察
演習	パルスオキシメーター	10	生命徴候の観察